放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 2月 24日　　事業所名　戸次なごみ園

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			クールダウンできる個室や堰堤を療育に活用している。	今後も子どもの成長に伴い、個々の特性に応じて対応していく。利用時の特性に応じて、園庭とホールの活用を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	100%			職員が休みでも十分対応できる職員数を確保している。個別対応をすることができる。	配置数は適切でも、子どもの動きに合わせて職員が連携して取り組む。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			手すりやスロープなど設置している。トイレは車いす対応にしている。刺激を統一している。視覚支援を活用している。	柱の角など危険個所には、安全ガードを施しているが、子どもがはがすことがあるため、その都度確認して対処する。苦手な玩具や物がある利用児が来園する時は、忘れずに見えないような場所に移動する対応をした。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	86%	14%		その日のミーティングで、支援の振り返りを全職員で行っている。	常に職員間で情報共有しているが、業務日誌に大事な項目をより詳しく記載して連携を密にする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	71%	29%		保護者へのモニタリングや面談等で、ニーズに対して、前向きに検討している。	今後も自己評価表アンケートで得た意見を踏まえて検討し、できるだけ迅速に前向きに対処していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%		ホームページにて公開したり、事業所内に掲示したりしている。園便りで、知らせている。	公表結果をコドモンで知らせ、ニーズに対して迅速に対応して、今後もよりよい運営を築いていく。意見が出た場合は、全職員で検討していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	86%	14%		法人で第三者委員を設置しており、何かあれば対応する体制は整えている。	第三者による外部評価としてはまだ実施していないが、他事業所の評価の情報共有をしながら全職員で十分検討し、改善していく。

	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			法人研修や事業所研修をはじめ、外部研修にもできる限り職員を参加させている。	今まで参加できていない外部研修にも積極的に参加できるようにしていく。また、コロナ対策のZoom会議にも対応していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			保護者との面談を通して、ニーズを把握し、支援計画を作成している。	今後も職員間で日々の支援の振り返りを行い、課題やニーズを検証して利用計画に反映させるようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			アセスメントシートを活用しながら、ケース検討会議で問題点を検討している。	標準化されたアセスメントツールを特に使用はしていないが、発達検査（WISCなど）の結果から、今後の支援に取り組んでいくようにする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			毎月職員会議で、活動プログラムを立案・計画して取り組んでいる。季節感や利用児の個性に即した内容にしている。	今後も、マンネリ化にならないよう、いろいろな情報や知識を駆使して、季節感や子どもの個性や能力に応じて内容を展開していく。また、他事業所の活動内容など情報共有して、幅を広げる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			昨年を振り返り、利用児の個性・実態に即した内容を進化していくようにしている。また、利用児の意見も取り上げるようにしている。	今後も子どもの特性に応じて、子どもたちの話し合いで意見を取り入れ、SST（ソーシャルトレーニング）を充実して満足できるようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			長期休暇の状況に応じて、個々の課題を設定し、長期休暇時にしかできないお出掛けなどを実施している。	子どもの実態に即して、課題を検討していく。特に、健康管理や体力向上を踏まえて、体を動かす活動（散歩やボール遊びなど）を取り入れていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%			毎日のプログラムの中に、個別活動と集団活動を取り入れて対応している。集団活動は、個々の特性に応じて対応している。	個別活動では、個々の能力や特性を見極め、本人の興味ある活動に取り組んでいく。集団活動では、季節感を感じる活動を取り入れているが、子どもの意欲や能力など状況を踏まえて、集団活動の内容を提供していく。特に、指先を使う制作活動は、個々の状態に応じて制作内容を配慮する。

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			毎日のミーティングで、その日の流れや支援について確認している。毎日倫理綱領を唱和し、支援の向上に努めている。	利用児の想定外の動きから、いろいろ対応を考えるようにしていく。また、いろいろな活動内容に対応できるよう検討する。ミーティングで、その時の職員の動きもより詳しく設定していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	88%		12%	日々支援を振り返り、内容を業務日誌に記入している。また、職員全員が回覧し、押印確認をするようにしている。	支援終了後の送迎や清掃の関係で、就業時間終了までの時間が少なく、支援の振り返りに十分な時間が確保ができていないのが課題である。効率よくできる工夫をしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			毎日、個別支援記録を必ずパソコンで記録している。あとで振り返れるようにしている。	継続して支援する場面や課題行動での支援者のアプローチ等、今後につながるよう記録の仕方について検証していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			６か月ごとの見直し（モニタリング）を行い、利用児の状況の変化に対応している。また、送迎時の聞き取りにも対応している。	利用児の成長とともに、モニタリングをより深めるようにする。その際、今何が必要なのかを全職員で検証していく。見直しをする中で、個々の特性についても、認識を深めていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%			ガイドラインを職員に周知し、確認しながら取り組んでいる。ガイドラインファイルもすぐに出せるところに置いている。	ガイドラインの項目は、全職員で読んで踏まえているが、地域支援の提供に工夫さがまだ課題である。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			児童発達管理責任者が原則出席するようにしているが、状況に応じて、療育現場で主に関わっている職員が出席するようにしている。	状況に応じて、精通した職員が参画しているが、他職員にも情報を今まで以上に聞き取りをし、より支援の質を上げるように工夫していく。

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			送迎時や電話連絡等で必ず確認している。また、トラブルについても必ず報告・連絡を管理者にするようにしている。また、保育所等訪問支援を通して、情報共有を行っている。	今後も学校と連携しながら、丁寧な情報共有をしていき、実態に即した支援を工夫しながら取り組んでいく。特に、放課後等デイサービスでの子どもの様子を、実際に担任にも見てもらう機会を設定していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%		医療ケア児の状況を確認し、必要に応じて、主治医と連携をとることを保護者にも確認して支援できるように検討している。	現在、対象児はいないが、利用の際には、当法人の看護師チームにも相談しながら取り組みたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%			事前に各関係機関と情報共有会議を行い、就学前の支援につなげている。	就学前に情報共有しているが、取り組む時期が遅れないようにしている。状況を見極めて早めの取り組みをしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%			移行前の担当者会議等で、情報提供し、連携することでスムーズな移行に取り組めている。	利用児の進路状況に応じて、情報共有していくことを心掛けるが、情報を伝える時期も考慮していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			支援会議や担当者会議を通して、支援の統一に取り組んでいる。また、イコールとも情報交換しながら、助言や研修を受けている。	研修計画を見直し、専門機関と日程等を調整して研修するようにしていきたい。また、もう少し幅広い内容の研修を検討し、必要な助言を求めるようにする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	57%	43%		児童クラブ等との交流は、実現できていないが、地域の行事に参加することをしている。	今現在コロナウィルス感染防止から、交流はできていない。今後は状況に応じて、地域の関係施設と何らかの形で交流ができるようにしていきたいと考えている。

	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	57%	43%		案内のある協議会等には、出来る限り参加すると共に、法人他事業所とも連携をとっている。	現段階では、地域の自立支援協議会会議には参加できていないが、会議に参加している当法人他事業所から福祉情報を得るようにしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			送迎時や個別面談を通して、利用児の状況について共通理解を持つようにしている。	送迎時に詳しく伝えれない時には、後ほど電話で状況を伝え、共通理解を図っている。保護者から子どもの発達や課題についての相談は迅速対応しているが、必要に応じて、他事業所との連携を密にしていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	100%			ペアレントプログラムの要素を盛り込んで、保護者の対応力の向上につながるよう工夫している。	ペアレント・トレーニングやピアカウンセリングを視野に保護者会開催などに取り組んでいきたい。ペアレントプログラムの内容も活かしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%		利用契約時に、書面にて説明し、同意を得るように努めている。また、見学者に対してもパンフレット等を用いて丁寧な対応をしている。	運営規程や利用者負担等について変更があれば、その都度迅速に伝える。保護者からの支援の内容の質問等にも、充分検討して丁寧に説明していきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%		14%	児童発達管理責任者や主任保育士を中心に、保護者の相談に応じ、保護者の不安を軽減できるように取り組んでいる。	子育ての悩みについては、迅速に対応していく。必要に応じては、臨床心理士との面談を設定していく。職員と保護者との関係性を大切にし、今後も話しやすい環境を整えていくように心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%		毎年、保護者会を開催し、保護者同士の交流が図れるようにしている。今年度も、状況を見て3月開催を予定している。	保護者同士の交流は、保護者会を通して取り組みたいが、コロナ感染状況に応じて対応していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			苦情解決に関しての説明を利用契約時に行い、苦情があれば対応する体制は整えている。	常に保護者の意見に対して、真摯な姿勢で対応し、検討を重ね、より質の高い支援を行いたい。

	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			毎月園便りを発行し、コドモンで発信している。園での過ごし方や活動の様子を写真で伝えるようにしている。	毎月発行はしているが、より詳しく、多くの子どもたちの様子が伝えられるように動画を使用する等工夫していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	100%			個人情報の取り扱いは、利用契約時に同意書を交わし、保護者に確認しながら取り組んでいる。また、書類は施錠付きの棚に収納している。	個人情報となる内容に相当するかを全職員で検討しながら、保護者に同意を得ながら十分注意していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			利用児の特性に応じて、絵カードやスケジュール表等を活用している。動画も必要に応じて活用している。	保護者との意思の疎通や情報伝達に関しては、電話や面談で行っているが、より詳細な事についての内容には、動画を利用するなどより丁寧な対応をしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	72%	28%		地域の行事やお祭りに参加している。	戸次なごみ園自体に地域住民を招待するところまではできていない。今後交流会などの行事も工夫していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%			各マニュアルは、保護者会で説明をして周知している。新規利用の方には、利用開始時に説明している。	今後も保護者会などを通して、丁寧に説明をしていき、避難訓練も実態に即して工夫しながら取り組んでいく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	72%	28%		障がい特性に応じて、年2回避難訓練を行っている。備蓄品の準備もしている。	子どもたちの避難行動がスムーズにできるように個々に応じて視覚支援等を用いていきたい。保護者への周知不足も今後の課題である。

	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			虐待チェックシートを定期的に記入している。毎年法人虐待防止研修会にも参加するようにしている。	各職員の虐待チェックシートの結果を踏まえて、職員会議で支援を見直し、より適切な対応をするようにしていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			安全面での配慮は、放課後等デイサービス支援計画に記載し、対応について同意を得ている。	身体拘束についての考え方（3要件など）については、常に職員間で確認しているが、どのように対応するのがよいか今後も慎重に検討していくようにする。虐待防止委員会にも事例について提案していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			食物アレルギーのある利用児には、保護者と情報共有し、主治医の指示に応じている。	今後も食べ物アレルギーに関しての相談や知識を法人看護師と連携しながら取り組みたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			ヒヤリハット報告を記入し、職員で周知するようにし、業務日誌にも記入している。	ヒヤリハットがあった場合、報告書を提出してもらうが、会議での検討をより綿密にしていきたい。